

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101500		
法人名	医療法人社団 楽聖会		
事業所名	あかねヶ丘ケアセンター		
所在地	山形県山形市あかねヶ丘三丁目15番7号		
自己評価作成日	平成 29 年 12月24日	開設年月日	平成 15 年12月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 1月 24日	評価結果決定日	平成 30年 2月 13日

(ユニット名 西棟ユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住みやすい地域環境の中で入居者様一人ひとりの気持ちを尊重し、6名という少人数の家庭的な落ち着いた雰囲気の中で20代～50代の心温かい職員が入居者様の「その人らしく充実した晩年」「自分の人生の主人公は自分自身」と思ってもらえる様に支援、援助しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に複数の事業所が併設されており、夏祭りなどの行事を共同開催しています。地域との関わりを大切にし、行事への相互参加や高齢化対策などでプロとしての助言や相談の窓口となり常に門戸を開いています。理念の一節に「自分の人生の主人公は、自分自身」を掲げ、職員は利用者の思いを最優先に、食べたい物行きたい所などを把握し叶える為に困難と思える事も労を惜みず工夫し、利用者の笑顔や言葉から達成感を味わい、双方が多くの喜びを得ています。一人ひとりの環境や性格の違いを理解し職員も共に最期まで笑って暮らしてもらえる様に努力を続けている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を目の届くところに掲示し、全職員でその理念を共有し確認を行い実践につなげている。	理念を目に付きやすいように掲示し常に意識出来るようにしている。入居後も在宅時の生活スタイルを変えることなく、利用者が望んでいる事を把握し叶えられるよう全員で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の一員として町内盆踊り、公園清掃、防災訓練、資源回収等の地域行事に参加している。又事業所の祭りや避難訓練等に地域の方々から参加協力して頂き、日常的に地域住民と交流できるようにしている。	事業所の夏祭りに地区住民が訪れ、地域の盆踊りに利用者が見学で参加するなど交流をしている。施設長が地域の行事で依頼を受け認知症について講話を行ったり、環境整備活動に職員の参加などで感謝されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事や事業所行事に地域の方々と一緒に参加する事で認知症に対する理解や支援方法を地域の方々に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見、課題等を、チームミーティングにて周知し、課題解決につなげ、サービスの質の向上に努めている。	併設のディサービスと共同で地区役員などの出席を得て開催している。生活の様子や行事報告、ニュースからの気づきや地区内の高齢化の実情など多岐にわたり活発に話し合い、取り組みに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村担当者と連絡を取り、協力関係を築いている。又月一回の介護相談員訪問時に入居者のサービス状況を説明し、意見や提案等を載いている。	市担当者とは折に触れ連絡をするように心がけている。また地域包括支援センターを通して、問題を抱える利用者受け入れ要請などにも可能な限り対応し、相互協力で良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所として身体拘束は行わないという方針を全職員は理解している。その方針のもとに全職員は入居者の立場になって考え、入居者の思いを理解する事で日頃より個別ケアを実施している。環境面も含め、チームミーティング等で話し合い、身体拘束をしないで過ごせるよう取り組んでいる。	身体拘束や虐待について繰り返し学び全員が理解している。利用者の身になって考え、好きな時にやりたいことを行う自由を尊重し、重度の利用者も座りっぱなしや寝かせっぱなしにする事なく車椅子は移動の為のみの利用としている。拘束を行わない為に起こり得るリスクについては家族の理解を得て抑圧のない暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員が外部研修、内部研修に参加し意識を高めている。職員一人ひとりが高齢者虐待防止法等の内容を適切に理解し、施設内での虐待が見過ごされることがないように体制作りを努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての外部研修、内部研修を実施しており、理解を深めている。又日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を回覧できるようにしており相談を受けた際はし対応できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の運営方針や理念を説明し、利用者や家族が納得した上で契約を交わしている。解約後の入居先等の支援も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年1回行っている家族会にて、各入居者家族からアンケートを書いて頂き、アンケートから上がった意見を職員全員に周知し、話し合い運営に活かしている。又利用者より日々の関わりの中で出た要望や意見も反映している。	家族会アンケートで意見を聞き、面会時にも気軽に話せる雰囲気作りをして、相談や要望を寄せてくれる事も多くなり信頼の証として大切にしている。利用者の楽しそうな表情に家族からは感謝の言葉が多く聞かれている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チームミーティングにて話し合った意見を管理者に報告し、職員の意見を反映している。又定期的に各職員から意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を見ながら、年2回人事考課にて職員個々の評価を行い賞与査定や昇給、昇格に反映させている。評価内容については各職員へ掲示する事で評価基準を認識し、各自の向上心、やりがいを高めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の内部研修や外部研修の参加を促している。参加者はチームミーティング等で研修内容を他職員に周知し共有している。又各職員より半年間の自己目標を立てて頂き、目標を持ち達成できるよう取り組みながら日々の仕事を行う事で個々のケアの質の向上を図っている。	毎月の内部研修ではより実践的な学習をし、外部研修にも積極的な参加を促し伝達研修で共有している。資格取得の際には状況に応じて勤務シフトの変更なども行い、働きながら学びやすい環境作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修、交換実習にて各グループホームとの交流、ネットワーク作り、お互いのサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。	山形県グループホーム連絡協議会に加入し、多くの資格を持つ施設長が講師となり企画に協力をしている。職員を交換研修などに派遣し他事業所の取り組みから気づきや自信を得、互いの向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のペースで過ごして頂きながら、職員が密に声がけを行い、入居者様の不安・要望をお聞きし、職員間の申し送り等で情報を共有し、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の要望をお聞きし、入居者様のケアに活かしている。面会時にご家族の話を傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にアセスメントを行い、本人の意向、必要としている支援を見極め、他職種や職員間で連携を図り支援している。また、必要に応じて医療デイケア、デイサービスの利用にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事出来ない事を把握し、残存機能を活かしたケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や事業所の家族会やお祭りに参加して頂き、楽しい時間を共有することで、本人様を支えていく関係作りを行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族、家族との外出、電話でのやり取りの支援やなじみの場所への外出やドライブを行い、関係が途切れないように支援に努めている。また、家族、友人が面会に来やすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が良好になる様、職員が入居者様の間に入り、話を盛り上げる等の対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際には、関係性を大切にし、施設での思い出の写真や品物をお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴を参考に、個々に聞き取りを行いながら、その人の言動の中にある思いを汲み取るよう取り組んでいる。	日々の関わりの中で利用者の言葉を聞き逃さず、言葉に出来ない方は表情から推し測り全員で共有し把握している。利用者の「海を見たい」の言葉から全員がバスで海を見に日帰り旅行をするなど思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族来訪時等、これまでの生活歴の情報を教えて頂いたり、本人にも聞き取りを行い、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合った時間の過ごし方や、身体状態に合わせた活動を取り入れ、統一されたケアを提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の「出来る事、出来ない事、したいこと、したくないこと、してほしい事、してほしくない事」を中心に課題を明らかにし、本人や家族の意見を反映しながら介護計画を作成している。また定期的なモニタリングを職員全員で行っている。	心身の状態を注意深く観察しながら課題を引き出し、全職員の意見を反映して現状の分析を行なっている。認知症であっても生活の満足感を維持し、笑顔で暮らせる様一人ひとりに最も適したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日常について気付きや問題があった時は個別に必要な事項を記録し、職員間で情報共有している。その内容を基にカンファレンス等を行い、実践、介護計画の見直しにも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や介護相談員の訪問、町内会活動への参加、ボランティア、中学生の職場体験受け入れ等、地域資源の把握、活用をし、利用者が豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時、協力医療機関について説明し本人及び家族にかかりつけ医を決定して頂いている。また協力医療機関の訪問診療やホームからの情報提供も行われており、適切な医療が受けられる様支援している。	かかりつけ医の継続については、数名の方が家族等や職員の付き添いで受診している。また協力医の訪問診療も行っており入居時に変更した方も多く、日常の様子やバイタル等を情報として報告している。結果等は記録に残し、家族とは電話で共有し、月2回の往診で安心した暮らしを送っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の状態観察を日々行っており、必要な情報は適切に看護師へ報告し、利用者の健康管理、医療的支援について、アドバイス、指示を受けている。必要時には協力医療機関である在宅支援診療所の医師に連絡を行い往診してもらっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的な面会により本人様の状態を確認すると共に、病院関係者との情報交換を密にし、早期退院に向けて医療機関と連携を取っている。また、入院治療が必要な場合においても協力医療機関の医師、病院関係者との連携体制が出来ている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針を説明し同意を得ている。終末期については、早い時期から定期的に医師を含めたカンファレンスを実施して、事業所の方針や出来る事を十分に説明した上で、医療関係者と共に家族の要望、本人の意思を確認している。	入居時に看取りの指針を説明し理解を得ている。利用者の機能低下が見られ入院したりした時などは、医師・看護師を交えて事業所で出来る事を話し合い、希望を確認している。職員は事業所の方針に準じて学び、今まで通り暮らしてもらいながら看取れるようチームで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で年一回、赤十字指導のもと救命救急および応急手当の研修会を実施している。またチームミーティングにて再確認を行い全職員が対応出来る様に理解を深めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施、内一回は消防職員立会いの総合避難訓練を実施している。また定期的にチームミーティングにて防災機器の使用方法や避難方法等を確認し全職員が対応出来る様に理解を深めている。	避難訓練を年2回実施している他に、地域の自主防災会の訓練にも参加し、炊き出し訓練等もしている。総合訓練時に動けない人は布団に乗せたまま誘導するようにと講評があり、チームミーティングで避難方法等の再確認を行い、全員で周知出来るよう検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が人生の先輩であることを念頭において、一人ひとりに合った言葉掛けや対応を行い、自尊心を傷付けることの無いように支援している。	おもてなし委員会を中心に日頃から職員同志で評価し合うなど、接遇に気を配っている。利用者と信頼関係を築くために、何気ない会話から何に困っているかを気付けるような関わり合いが出来るよう努力している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれに合った方法の選択肢を用いて、自己決定が出来る様に対応している。また、日々の会話、関わりの中から、困っている事、希望をさりげなく引き出し自己決定できるよう支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先させることなく、入居者様の生活リズムに合わせて生活して頂いている。何かをしたい、どこかに行きたいと言う要望はその日の生活に取り入れ支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴時の着替えでは好きな服を選んで頂き、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また定期的に美容院へ出掛け、好みの髪型ににして頂いている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりができることを自ら行い、食事の準備や後片付け等を行って頂いている。また、出来ない事のみ職員がそっと支援し残存機能の維持に繋げている。料理作りに参加していただくことで楽しんでいただきながら食事支援している。	利用者の1人が「私がやっているの」と皆に声を掛け、井ぶり物のごはんを上手に分け切り職員も一緒に食べている。3日に1回は利用者も何人か一緒に買い物に出掛けている。行事食は暦に準じて作り、外出支援も兼ねての夕食も多く、楽しい食事支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮して、1人ひとりの食事の量、食事の大きさ、等を全体を通して把握している。又、個々に合わせて食事時間や、水分量の確保の支援を行っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕、一日3回歯磨きや口腔体操を行い、口腔内の清潔が保てる様に支援している。月に一回歯科衛生士による口腔ケア指導を行っている。必要時には、歯医者へ通院している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様に合わせた排泄パターンを把握し、失禁が減る様に入居者様に合わせて定期的にトイレ誘導や介助など声掛けや援助、支援を行っている。	排泄チェック表によりパターンを見ながらそっと声がけをする等、尿意のない方でも時間で誘導し、トイレで排泄出来るよう介助している。病院でおむつを使用している、パットに変わるなどのレベルアップもあり、自立に向けた支援もしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、飲食物等の工夫を行い、医師の指導に基づき下剤の服用、排便時の腹部マッサージを行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回以上入浴できるよう支援している。入浴の希望がある時には時間を問わず対応し、安心して入浴して頂けるよう各温泉の入浴剤や季節に合わせた入浴剤(菖蒲、ユズ、リンゴ)、を使用し、楽しんで入浴が出来るよう支援している。	利用者に入浴の希望があった時には、何時でも入れるように湯をはっておき、一人ひとりの体調や習慣に合わせた支援をしている。入浴前にバイタルを見て、転倒、温度差等に気を付け、1対1の介助で気持ち良い入浴を楽しんでもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングやソファや和室で居眠りをしたり居室で休まれたり等、入居者様の生活ペースに合わせて、好きな時間に休息したり、入床して頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をケースに保管し、入居者様1人1人の薬の理解に努めている。又 朝、昼、夕と別々に分けて、ミスの無い様に声掛けを行い、服薬の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や洗濯物たたみ、食器拭き、調理補助をして頂く等、1人1人の力を活かせる場面を作っている。又入居者様の意見を取り入れて、花火大会鑑賞や、町内盆踊りにも出掛けており、楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で買い物に出掛けたり、天気の良い日は散歩へ出掛け、町内の住民や西棟ユニットの入居者様と交流を図れる様支援している。買い物の際は、入居者の行きたい所へドライブがてら出掛けられるよう支援している。また、日々の会話の中でお聞きして、レク等で取り入れ外出レクを楽しんで頂ける様支援している。季節に応じて、初詣、花見、さくらんぼ狩り、花笠、ぶどう狩り、紅葉狩り、ナイトドライブ等に出掛けしている。	職員と一緒に散歩したり、買い物に行くなどの他、東ユニットから西ユニットに行きお茶飲みに行ったり車椅子で公園まで行ってみるなど日常の支援や、家族が迎えに来て家に行くなど家族との外出をしている。利用者から花見に行こう、山に行こうと声が上がリ、季節ごとの行事に合わせた外出を楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理は行っていない。欲しい物がある場合は買い物に出掛けた際は、立替えて購入して頂いている。ホームの財布から利用者に支払いをして頂く事で金銭管理能力の維持やお金の大切さを理解してもらえるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていただき、家族等に新年のあいさつをして頂いている。また個人で携帯電話を持っている方は、家族等へ自由に連絡を取っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、キッチン、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節に合わせた入居者様の作品を展示したり、写真を飾る等をして思い出話が出来る様工夫し、居室に近いトイレの扉の開閉に配慮し不快感が無いように努めている。また会話の中に、季節感があるような題材を取り入れ会話をしている。	リビングには季節がわかるような装飾をしている。出かけた時の写真が貼ってあり、にぎやかだがその中から思い出す事も多くある。リビングは皆で集まる所であり、食席が一番落ち着く居場所となり、お茶を楽しむ利用者からはさわやかな笑顔が見られる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を解放しているので自由に移動し、入居者様の思いで過ごせるようにしている。リビングに温度計、湿度計を設置し、居心地良く過ごせるような空間作りを行っている。季節の装飾品や、外出時やホームでの写真を飾り、落ち着ける空間作りを行っている。入居者と職員は毎日の掃除を一緒に行い常に清潔であるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、タンス・椅子等慣れ親しんだ品物を持ち込まれたり、御本人が使い易い様に配置され、居心地の良い居室になっております。居室入口には家族や職員の準備した写真や飾り物が置かれ、部屋の間違い防止の為に工夫もなされています。	洗面台、クローゼットが設えてある居室に、ベッドや使い馴染んだ家具を持ち込み落ち着いて暮らしている。入口に飾り棚が付いていて、各自の作品、折り紙細工等を飾り、自分の部屋の目印にしている。居室までの動線を確保する事で転ばない環境にするよう気配りしている。和室仕立てにしてタタミで休む方もおり、自分の思いどおりの暮らし方で、夜間の見守りに安心して過ごしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー環境で、福祉用具を使用しでの歩行も可能である。入居者との関わりの中で個々の残存機能を理解し力を活かし生活できるよう支援している。自室前には入居者が作成した作品や写真を飾り、自分の居室をいつでも認識できるよう工夫している。		